

令和3年度

幼稚園だより 12月号



文京区立千駄木幼稚園

大切にしたい園庭の自然

園長 渡邊 典子

園庭のイチョウが色付き、間もなくカエデも真っ赤に彩ります。紅葉は秋の風景と思っていましたが、東京は冬の声を聴くころになって色付くので、地球温暖化の影響を受けているように感じます。四季を感じることでできる木々や自然に優しい環境を、大切にしていきたいと思います。

週明けの朝、幼稚園は一面の落ち葉に埋め尽くされます。園庭を歩いて行く学級の子どもたちは、落ち葉を踏んで『カサカサ』という音を楽しみながら保育室に向かっていきます。また、途中で大きな葉を拾って担任に届けたりする子もいます。今週は玄関先のアオギリのたくさんの落ち葉に思わず「すごい」「落ち葉がいっぱい」と皆が歓声を上げていました。

5歳児の保育室にはアオギリの葉を束にしたシャンデリアが飾られています。また裏庭に通じるカキの落ち葉を大きなビニール袋に小さな熊手を使って集めています。「集めてどうするの」と聞くと「お布団にするの」と教えてくれました。「フカフカのお布団で気持ちよさそうね」と言うのと「園長先生も使ってみる?」と返答してくれました。

小さな熊手は人気で、3歳児と5歳児が一緒になって『まるた小屋』の下にたくさんの落ち葉を集め、周りに木の椅子を並べて集って遊んでいます。4歳児は、いろいろな落ち葉や実をごちそうに見立てて使ったり、落ち葉の中で遊んだりすることを楽しんでいます。

本園は、令和2・3年度の文京区教育研究協力園として「主体的に環境に関わり自然との出会いを楽しむ子ども～園庭の自然環境を生かす物と場の工夫～」を主題に、11月26日に研究発表を行いました。今回は公開保育を行いませんでしたので、子どもたちが自然物と関わっている様子を当日まで写真に撮り、画像として研究内容と同様にオンライン配信をしました。区内の公立幼稚園をはじめ保小中学校の先生方、都内の幼稚園や関係する多くの方に視聴いただきました。文京区教育委員の坪井節子先生もご視聴くださり、次のような感想をくださいました。

幼稚園の紹介ビデオ、研究発表、講演を通じ、幼稚園の先生方がどれほど子どもたちを大切に、自然の中で共に育っていこうとしているか、子どもたちの姿に驚き、感動し、共感しながら、保育をされているかが、じんわりと伝わってきました。東京のど真中に、千駄木幼稚園のような自然豊かな場所があること、そこで子どもたちが育っていくことの幸せを思いました。

教師の学びが、幼稚園の環境を生かした保育につながるように今後も努力してまいります。

今年度、保護者の皆様にも自然物に関心をおもちいただき、ご協力いただきありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。また、千幼会広報誌『わかば』でもこの素敵な園庭を特集するなど、保護者の皆様と共に自然豊かな幼稚園で子どもたちを育てていくことができることを嬉しく思います。これからも自然との出会いを共に楽しんでいきましょう。

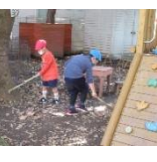
今学期もあと1か月になりました。2学期ありがとうございました。



アオギリの
シャンデリア



落ち葉の布団で(5歳児)



『まるた小屋』で(3・5歳児)



落ち葉の中で(4歳児)